

国際交流体験記（平成 26 年度）

教育学部国際交流委員会では、本学学生のグローバル化を推進する事業として、さまざまな事業を実施しています。平成 26 年度は、派遣学生を、学術交流協定校である誠信女子大学、コロラド州立大学に派遣しました。香川大学の海外交流拠点大学であるタイのチェンマイ大学にて、2年に一度開催している第5回チェンマイ大学・香川大学合同シンポジウムに、教育学研究科学生と、教育学部学生が参加し、研究交流、学生交流を実施しました。参加学生には、香川大学からの渡航費援助がなされました。また、日本学生支援機構（JASSO）の海外留学支援制度（短期派遣）に応募し、平成 25 年度に引き続いて「アジアアメリカ異文化交流プログラム」が採択されました。このプログラムは、学生の双方向交流の促進のため、日本の大学等が実施する3か月未満の留学生受入れ、または3か月未満の学生派遣のプログラムに参加する学生を対象とした奨学金制度を活用して実施されるものです。参加の学生には派遣地にあわせて1ヶ月あたり7万円～8万円の奨学金が支給されました。さらに、教育学部後援会からは、学術交流協定大学に留学する際、6ヶ月以内の場合は5万円、6ヶ月以上～12ヶ月以内の場合だと10万円の補助を行っています。この事業を活用した学部学生が、昨年に引き続き南ボヘミア大学を表敬訪問し、南ボヘミアのトジェボニ（トレボン）にある職業訓練高校でインターンシップ事業を行いました。平成 26 年度の事業の実績は以下の通りです。

・派遣学生（長期派遣）

國友香里（誠信女子大学、平成 26 年 8 月から 1 年間）

大西怜奈（コロラド州立大学、平成 27 年 1 月から 1 年間）

・第 5 回チェンマイ大学・香川大学合同シンポジウム

9 月、チェンマイ大学、教育学部教員 7 名、学生 11 名（大学院生他：Ivy Santiago C. Liwa、安井雅紀、福井信夫、下谷理恵、学部生：山田旅生、山本智広、高尾明香里、中村幸歩、樋口大輝、瀧本茜、橋本満菜）

・チェンマイ大学異文化交流プログラム

短期訪問 9 月 教員 1 名、学生 7 名

（山田旅生、山本智広、高尾明香里、中村幸歩、樋口大輝、瀧本茜、橋本満菜）

・コロラド州立大学異文化交流プログラム

短期訪問 8 月 教員 1 名、学生 4 名（三宅夏美、笠居愛香、裏山はなえ、北垣百梨）

・南ボヘミア大学インターンシッププログラム

短期訪問 3 月 教員 1 名、学生 2 名（細谷果穂、半澤伊吹）

・海外体験型異文化コミュニケーション（全学共通科目）

短期訪問 8 月 教員 2 名、学生 2 名（植田雄史、内海瑠衣）



国際交流講演会にて
國立嘉義大學師範學院教授 Dr. Huang Kuo-Hung

・「Study Abroad」(全学共通科目)

短期訪問2月 教員2名、学生2名(山越 咲, 宗森佳帆)

・語学研修

クライストチャーチ・ポリテクニク工科大学 (堀家利沙、佐伯友里恵、大坂ふみ)

また、受け入れ事業ではコロラド州立大学から初めての長期留学生として学生を1名受け入れました。また、コロラド州立大学から以前短期交流学生として香川大学に来たエリック・デイビスさんが3月からネイティブ教員として来実しています。短期訪問事業は、5月27日(月)

～6月28日(金)までコロラド州立大学の学生3名と教員1名、6月14日(土)～7月13日(金)までエックカード大学学生8名と教員3名、11月25日(月)には、台湾嘉義大学から学生8名と教員5名、12月19日～1月21日までチェンマイ大学学生7名が香川大学教育学部および、附属学校園で活動を行いました。国際交流講演会を年3回実施しました。

学生の留学体験記を以下に掲載します。

「アメリカに行きたい!でもアメリカは広すぎてどこで留学したいか迷う。」そんな人にとって、「コロラド州」と言ってもあまりピンとこないかもしれない。「ロッキー山脈」はどうだろうか?そう、実はコロラド州はロッキー山脈が通る自然豊かな、アメリカの中西部に位置する州なのである。アメリカが好きで英語をもっと向上させたいと思っている香川大学生にとって、コロラド州での留学生活は想像できないほどの体験と冒険が待っていると言っても過言ではない。ここでコロラドでの留学が特別な理由を3つ、私の経験を基に述べるとする。まず1番目は、自然豊かな広大な場所での生活である。日本でずっと生活をしてきている私たちにとって、特に香川県で生活する大学生にとって、コロラドは別世界である。大学は標高の高いところに位置するため空に近く、道路、キャンパス、全てが広く大きく、空気が美味しいところである。これまでそれほどアウトドアでもなかった私が、コロラドに来てからはアウトドアスポーツの魅力に惹きこまれた。ロッククライミング、ハイキング、サイクリング、スキーなど、自然の中に溶け込むことができる時間は格別である。2番目は、コロラドの人の英語がニュートラルなところである。アメリカは大きい故に、アクセントも場所によって様々であるが、コロラドは中西部に位置するためか、とても標準で分かりやすい英語を話す人が多い。最後に3つ目は、コロラド州立大学には日本語のクラスがあり、日本に興味を持っている学生と仲良くなれることである。ここに来てたくさんの日本



チェンマイ大学学生来日
附属高松小学校でのふれあい活動



語のクラスを取っているアメリカ人と友達になることができ、もっとアメリカを知ることができたということはこの留学での一番の収穫である。現地の大学生と混じって勉強して遊び、大自然に囲まれながらのびのびとした生活を楽しみ、自分を見つめ直す時間を持てたコロラドでの留学生活は私の人生を変えてくれたと心の底から思っている。(大西伶奈：平成27年1月から1年間留学)

香川大学に留学している町原友梨です。父親の仕事の都合で、私は日本で生まれてから8ヶ月でアメリカに引っ越しました。それがきっかけとなってアメリカで育ち、高校を卒業した後コロラド州立大学に入学しました。そこで、香川大学の教授、高木由美子先生と出会い留学の機会を得ました。初めは不安でしたが、将来日本で生活してみたいと思っていたので留学することに決めました。

教育学部に入り、日本語や数学及び音楽の勉強をしています。日本語の授業では文法だけではなく、ノートのとおり方、メールやメモの書き方、敬語など、様々な将来に役立つようなことを学んでいます。数学と音楽の授業はアメリカの授業と形式的に同じですが、日本語での専門用語が勉強になります。コロラド州立大学では一科目につき75分の授業を週2回、あるいは50分授業を週3回行いますが、香川大学では一つの科目が週一回90分です。初めは不思議に思いましたが、90分の授業だと内容にきちんと区切りがつくし、その日に出された課題を終わらせるのに丸まる一週間あるので、あせらずにやりこなせる気がします。

大学では英語教育のお手伝いもしています。イングリッシュ・カフェという場所があり、そこでは学生が英語のスピーキングを練習できます。そこへ週2回は行きお昼を食べながらいろいろな学生と会話を交わしています。

週末はいろいろなところへ行き、日本の美しい自然を楽しんでいます。高松に着いたときは4月の初めてのころで桜を見ることができました。特に印象に残っているのは栗林公園の夜桜です。夜空の紺色と桜のピンク色がとても綺麗でした。5月の上旬には香川大学の理科の研究室の学生と先生方と一緒に合宿で塩江へ行きました。初めての合宿でとても楽しかったです。同じ学部の学生と仲良くなれる、いい機会だと感じました。6月には瀬戸内海の方へも旅行しました。直島の美術館や小豆島の寒霞渓を見学して楽しかったですが、コロラドは内陸なので海を見ることができませんから、景色を見ているだけでもよかったです。

香川に来て様々な日本の文化や習慣を経験することができ、また日本ならではの美しい自然に触れることができとても幸せに感じています。残りわずかの留学生活を悔いなく過ごしたいと思います。(町原友梨：平成27年4月から半年間留学)



初めての来学 (右はエリック・デイビスさん)